

雑感

学びの先にあるもの

先日『あの日のオルガン』という映画を見ました。戦時中、日本で初めて行われた疎開保育園の実話を元に描かれた作品。当時、疎開先では53人の子どもたちと11人の保育士が生活を共にしたそうです。幼い子どもたちが家族から離れて過ごす生活は初めてのことばかり。日々の試行錯誤の末に主人公の保育士が「疎開保育は正しいことしているのか」と問いかける場面。「正しいかどうかは今わからない。その答えは子どもたちが生き抜いておとなになった時に教えてくれる」、園長のそう答えた言葉と、葛藤しながら子どもたちを見守り育てていた周りのおとなの姿が、見終わった後ずっと心に残りました。こどもの森では、子どもたちの個性がそれぞれ異なるように、一人ひとりにあった学びを大切にしています。困ったことがあったら時に時間をかけて話し合いながら解決策を探すこと。子どもた

ちがアイデアを持ちよりながら行事を作ったり、自分の得意なことも苦手なことにもちょっとずつチャレンジしたり。そんな風に日々、子どもたちと一緒に学びを作っています。すぐには答えにたどりつかない学び。数値で測れない学び。「この毎日がどんな学びにつながっていくのかな」とふと思うたび、やっぱり目の前の子どもたちが教えてくれるような気がしています。今年の春に巣立っていく卒業生を見送ったとき、ふらりとこどもの森を訪ねて帰ってきてくれる卒業生を迎えたときも。そんな子どもたちの姿に出会うたびに、この学びを重ねる意味を感じています。映画とは置かれている状況は大きく違っていても「子どもたちがおとなになった時に教えてくれる」そんな言葉にそっと背中を押してもらった気がしました。(高原 麗奈)

こんな学校に出会いたかった！！
♪箕面こどもの森学園 生徒募集♪
2019年度の生徒募集をしています！
自分も人も大切にしながら、いきいきと学べる学校に入学しませんか？

募集人数
小学部:2年生(1名)4年生(2名)5年生(2名)
中学部:1年生(1名)2年生はご相談ください。
*中3の受け入れは行っていません。
*その他の学年は、欠員待ちへの登録となります。
見学日:月・金(事前申し込み必要)
体験入学:学校見学の後、所定日数の学習体験をしていただきます。
*ご見学、ご入学をご希望の方は、下段の各種お問い合わせ先までご連絡ください。

もりもりサポーター大募集！

20代～70代までの人たちが、年齢や性別の枠を超えて、同じ夢を描くチームの一員として和気あいあいと活動できるのが、箕面こどもの森学園の醍醐味。
ぜひ、もりもりサポーター(会員)になって、ご関心のあるところに参加していただければとてもうれしいです！
*こどもの森:インターン(学習サポート)
*おとなの森:教育カフェマラソン実行委員
*こそだての森:保育サポーター
*ミライの森:ロハス実行委員
*全体:ファンドレイザー、イベントサポーター

ミライの森

■教育カフェマラソン
2ヶ月に1回、さまざまな分野の方を話題提供者にお招きし、教育について語り合っています。学校教育だけにとらわれず、子育てや地域・まちづくりなど、幅広い視点で考えたいと思います。
最新情報は学園HPをご覧ください。

各種お問い合わせ先

〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX:072-735-7676
メール:info@kodomonono-mori.com
URL:http://kodomonono-mori.com



《編集後記》

桜の花もまだ寒そうな感じの4月、新年度が始まりました。節目というのは終わりであり始まりでもあります。子どもも大人も、それぞれいろんな卒業や挑戦もあると思います。自分らしく、個性を大切にしたい。子どもたちが成長してほしいと願いながら、これからもできることをしていこうと思います。(日置)



発行日:2019年4月20日
発行者:認定NPO法人 箕面こどもの森学園
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
tel&fax 072-735-7676
e-mail info@kodomonono-mori.com
URL http://kodomonono-mori.com
ユネスコスクール Member of
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

テーマ学習「暮らしとエネルギー」

低学年は学校の電気のコンセントから分電盤 → 電柱 → 電線 → 小野原変電所と実際にたどりましました。そして「エルクルールさかいこう(全学年)」や「ガス科学館(全学年)」「大阪科学技術館」に見学に行き、化石燃料、天然ガス、火力発電の仕組みを知り、エネルギーの使い過ぎによる地球への影響にも関心を寄せ、新しいエネルギーのアイデアをそれぞれが絵で表しました。

高学年は今と昔のエネルギーの違い、産業革命やエネルギーの移り変わり、生活の変化による多大なエネルギー消費を知りました。一人ひとりが調べたテーマの中には「モノレールと電車」「風力発電」「原子力発電」「雷のエネルギー」「バイオマス」「ジェットコースターのエネルギー」「ソーラーフードドライヤー」「エコカー」「R水素」などがあり、自分の中の問いが実際はどうなのかを発表会で伝えました。

さまざまなエネルギーを知り、消費を抑える事の大切さにあらためて気づくと共に、未来のエネルギーを考えるきっかけとなる学習でした。(芳仲ま)



本作りワークショップ

昨年の11月から高学年クラスでは、装丁家の矢萩多聞さんといっしょに、「本ってなんだろう?」というところから始まって、個人やグループでそれぞれに好きなことや気になることを題材にした本作りワークショップに取り組んできました。

内容を考えることや、材料集めに苦労して、自分のアイデアをページに表現していく難しさを感じながらも、絵やマンガを描いたり、自然のものを使ったり、お話を書いたり、色んな工夫を通して、それぞれに作った人の表情が浮かんでくるような素敵な本が出来上がりました。

最後には、1日限りのブックショップを開店。自分の本を紹介するポップも準備して、数量限定の、世界でこどもの森でしか売っていないレアな本たちが並びました。本が売れていくたびに笑顔が増え、売り上げの1割はクラスの資金にもなりました。

時間をかけて作った日々は、楽しいだけではなかったけれど、子どもたちの表現の幅が広がった豊かな時間になりました。(藤丸)



みんなで創る卒業式と卒業を祝う会

3月15日に小学部5名、中学部1名の6名が卒業しました。卒業証書授与、学校長や担当スタッフからの応援の気持ち一杯の送る言葉の後、卒業生からは入学から卒業までの自分を振り返り学園での学びや自分自身の振り返りなどがしっかりと語られてみんなの心に響きました。

卒業式の後恒例の祝う会が始まりました。飾り係が作ったたくさんの花に囲まれたホールに、プログラム係の手書きプログラムが貼られ、道具係が壁際にずらりと並び、司会係がマイクを握り、「卒業を祝う会」が始まりました。歌、ダンス、合奏、なぞなぞ、スタッフや保護者の歌。

楽しさあり工夫ありの出し物で穏やかに時が流れ、最後に垂れ幕係による大きな幕が花吹雪と共に下ろされました。

祝う会は、それぞれの係が練習したり準備しながらコツコツと担当のピースを作り、この日すべてのピースがピシッとはめられ、大きなパズルが完成したような感じがしました。春の暖かさでこどもの森の温かさに包まれたステキな1日になりました。(平嶋)

2019年度入学と進級を祝う会

今年もタイミングを計ったかのように咲いた学園の桜の花。その花に祝福されるように、1年生8名、5年生2名、中学1年生7名の入学と39名の進級をお祝いしました。

校長のお祝いの言葉に、ネイティブ・アメリカンに伝わる7番目の方角の話がありました。7番目の方角は、東西南北と上下に続く、自分という方角のことで、自分軸という方角を大切に学校生活を送ってほしいというお話でした。新入生へのコサージュのプレゼントに続き、進級した子どもたちが、「ことば・かずをがんばりたい」「修学旅行を3泊4日にしたい」「今年受験があるけど、自分がやりたいことも大切にしたい」など、今の想いを一人一人が語りました。最後に、昨年度の音楽Aの人たちから「こどもの森へようこそ」と「世界に一つだけの花」の歌が振りも交えながらプレゼントされ、みんなの笑顔が溢れるスタートとなりました。(矢吹)



各種イベントのお知らせ(4月～7月)

こそだての森

■子育てカフェ「こどもの森のハッピーアドバイス」

生きる力の土台、「自己肯定感」の育み方を一緒に考えましょう。
第1回 4/17(水)「しあわせな子どもに育てるために」
第2回 5/15(水)「自己肯定感を育む聴き方」
第3回 6/12(水)「自分で決めていいんだよ」
第4回 7/10(水)「人生の悲劇は『いい子』から始まる」
【時間】10:00～12:00
【参加費】2,000円 *4回まとめて申し込みと8,000円→6,000円に!
【講師】坂本田鶴子、守安あゆみ(認定子育てハッピーアドバイザー)
【定員】20名

■就学前の子どもと親の土曜クラス「そら in 里山」

やりたい!という気持ちを大切に、里山の自然と暮らしの中でアートの世界を楽しみます。貴重な時間を里山のアトリエで過ごしませんか?
説明会 in 里山
【日時】4/20(土)10時から12時
【場所】黒川公民館(旧黒川小学校、川西市黒川)
【内容】スライド上映、ミニ里山散策、米粉で棒パン作り
【参加費】500円(親子1組、保険料込)
【2019年度そら開催日(前期)】
5/11,25、6/15,29、7/13,27、8/24、9/14,28、10/12(計10回)
【定員】15組

おとなの森

■もりラボ企画「ヒモトレ体験会～身体との対話始めませんか～」

ヒモに任せて動いたり、ヒモをゆるく巻いたりするだけで、自ずと本来のバランスに整います。
【日時】6/14(金)16時半から18時
【参加費】500円(ヒモ代100円は別途)
【講師】廣田景一(支援学校教員)
【定員】30名

認定NPO法人箕面こどもの森学園の事業活動 1月～3月

【小学部】

自由作文

どうぶつえん ゆいな (小1)

まえに、どうぶつえんのゆめをみて、かわいかった。

にゃんこだいせんそう たけみ (小1)

にゃんこだいせんそうでアガチャひいて、ねこばんちょうあたってよかった。あと、ねこばんちょうのおかげでドイツまで行ってよかった。

ともだちとあそんだこと おのそら (小2)

日よう日に、友だちと近くにある公園に行って、みんなとおにごっこをしたりいろいろなあそびをしました。お昼ごはんは、いっしょに、たべれなかったけど、その後も、みんなであそんで、楽しかったです。

プロジェクト紹介

ぐりぐら (羊毛) りゅうと (小3)

どうして作ったのかというと、さいしょゆきちゃんに作ってみる？ときかれておもしろそうとおもったのとどうぶつ羊毛を作りたいとおもったからです。

はりがねを人げんのかたちにします。できたらはりがねにボンドをつけ白い羊毛をまきつけます。できたらさらに羊毛をつけ、ニードルでぐりとぐらのかたちにします。さいごにぐりはあおのフェルト、ぐらはあかのフェルトでぼうしとふくを、はりといとをつかって作ります。ぼうしとふくができたら、さいほうばこのはりをつかってぐりとぐらにぼうしとふくをつけます。

つぎに目を作ります。まず白い目を作ります。白い羊毛でちょっと大きい羊毛を作ります。つぎはくろい

目を作ります。白よりも小さく作ります。これで目はかんせいです。つぎはくろい羊毛を白のうえにかぶせます。これをぐりとぐらの目としてつけます。これでかんせいです。

かかったコマは16コマです。むずかしかったところは、はりがねにボンドをつけて白い羊毛をつけるところです。楽しかったところは、ふくをつけるところです。はんせい点はもうちょっとボンドをつけたらよかったです。

つぎにやってみたいのはナイフです。



【中学部】

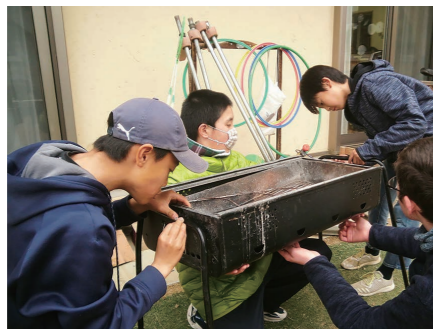
みんなでつくる共同プロジェクト

一つのプロジェクトにクラス全員で取りくむ「共同プロジェクト」

2学期からは「クラスで旅に行く・そのための資金集め」をすることが、話し合いで決まりました。行き先のアイデアを出し合い、どんな方法で資金集めをできるかを考え、「クラウドファンディング」「イベントで商品販売」のグループに分かれて動き始めました。

最終的にはこどもの森のNPOイベントで出店をすることに。ロハスフェスティバルの雑貨販売では、それぞれの得意な分野を担当することに決まりました。全体把握や会計、デザインを考える人、木工のキーホルダーや手芸でアクセサリを作る人。絵を描くのが好きな人はポップや看板を描く役割。新年会では、いろんな種類の手作りお菓子を販売。

その資金をもとに、何がしたい？どんなことができるのか？の話し合いをへて今回は「学校に宿泊すること」がメインに決まりました。1日目は学校近くにあるアミューズ



メントパークで過ごし、校庭でバーベキュー食材の準備や炭の火おこしを手分けして進めました。冬の寒い夜だったのですが「子どもが買い出しにあって、子どもがするBBQって初めてや！」と格別な様子。火を囲みながらぎやかに過ごしました。みんなで動くときは「洗い物しよか？」「手が空いてる人いない？」と声をかけ合い、協力しながら終わりました。翌日はたこ焼きパーティと、『みんなで一緒にやりたかったこと』をした二日間。

それぞれの得意なことを活かしながら、苦手なことも他の人と一緒にしてみたり、人手が足りない時はお願いしたりお願いされたり、自分ができることを探したり、準備や片付けで気づいたことがあればそっとならと終えてくれたり。そんな風に一人ひとりがかわり、みんなで共同プロジェクトが作られていきました。(高原)



サステイナブルな学びを全国へ！

「サステイナブルな学びのネットワーク」略して「サスマ」がスタート。

その名の通り、持続可能な学びの実践者同士でネットワークを作り、お互いに情報交換をしながら実践を豊かにしていこうとするものです。その中でこどもの森の実践を参考にしてもらえるようになっていきます。

市民の手で学校を立ち上げ、運営してきた経験を活かして、「今から学校を創ろう」「立ち上げたけれど、どのように運営していこうかと悩んでいる」という団体や個人に対して何かできないかと以前から検討していました。そして近年はESD重点校サステイナブルスクールとして、その実践をモデルとして発信していくという役割を担うために活動してきました。

それぞれの経験をもとに、学校創りだけでなく、ESD実践者にも間口を広げたネットワークを作ることにしました。重点校の有志が集まったミーティングでも提案をして、協働して進めていく体制が整い始めています。今後の広がりが楽しみです。(佐野)



サステイナブル会議にて

就学前の子どもと親の土曜クラス「そら」～終わり始まり～

「そら」がうぶ声を上げて3年、そして先月2018年度最後のクラスが終わりました。3回目の「終わりの会」は箕面校舎(拠点として)の最終日、この一年のスライドを見終え、「そら」の歌が大合唱になったときは胸が熱くなりました。この3年間に参加して下さった親子のみなさん楽しい時間を有難うございました。

この春からは「そら in 里山」が新たにスタートします。川西市にご協力いただき黒川にある旧黒川小学校が「そら」の拠点となります。

日本一と称される里山、人に守られた暮らしとともにある自然、山・川・田・畑、私たちの原風景が箕面から約20Kmの場所に健在しています。山や川で思いっきり遊んだり、趣のある校舎でちょっとクラフト、またコーヒーや読書タイム、地域の人に暮らしを紹介してもらったり、子育てについて考えたりしながら、参加者の方々と心地よい「そら in 里山」をつくっていきたいと思っています。(西川)



黒川公民館(旧黒川小学校)

NPO会員さんによるイベント企画「もりラボ」スタート！

当法人の会員のみなさまのことを親しみて「もりもりサポーター」と呼んでいます。もりラボは、もりもりサポーターのみなさまが企画者となり、「おとなも学ぼう。民主的に生きよう」というコンセプトのもとに始まりました。

第1回目の企画は、1月に開催した「ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えスーパーレット』上映会」でした。2学期の子どもたちのテーマ学習が「食べものの旅」だったことから、子どもだけでなく大人も食について学べたらとの思いで保護者の方が企画されたものです。2月には「世界丸ごと体感プログラム」を開催。岡山で森の広場「はにわの森」を運営している会員の方による、世界の暮らしをテーマにしたイベントでした。聴き方伝え方を学ぶ「コミュニケーション講座」をスタッフの守安が企画したり、3月には支援学校の先生をさせている会員による「ヒモトレ体験会」も開催。ゆるくヒモを巻くだけで身体のバランスが整うという不思議な体験でした。

今後、どんな楽しい企画が飛び出するか、どうぞご期待ください。(守安)



「ヒモトレ」体験

～2019年度のスタッフ体制～

今年度は、右のスタッフ体制と運営委員やもりもりサポーターのみなさんの協力のもと、こどもの森・こそだての森・おとなの森・ミライの森の4つの事業を進め、持続可能な社会づくりを目指していききたいと思います。

今年度もいろんな企画をしていきますので、ご関心のあるものにご参加いただければと思います！(藤田)

職名	名前
学園長	辻 正矩
常勤スタッフ	佐野 純、高原 麗奈、福田 麻衣、藤田 美保、藤丸 浩志、守安 あゆみ
専任スタッフ	矢吹 卓也
非常勤スタッフ	佐野 岳章、西川 友紀子、松崎 雅夫、矢熊 紀子、芳仲 磨由美
事務スタッフ	岡本 智子、織田 順子、中村 幸子
用務・撮影スタッフ	茂木 一、山崎 定樹